

モバイル接続料の検証について

KDDI株式会社

※ 赤枠は構成員限り

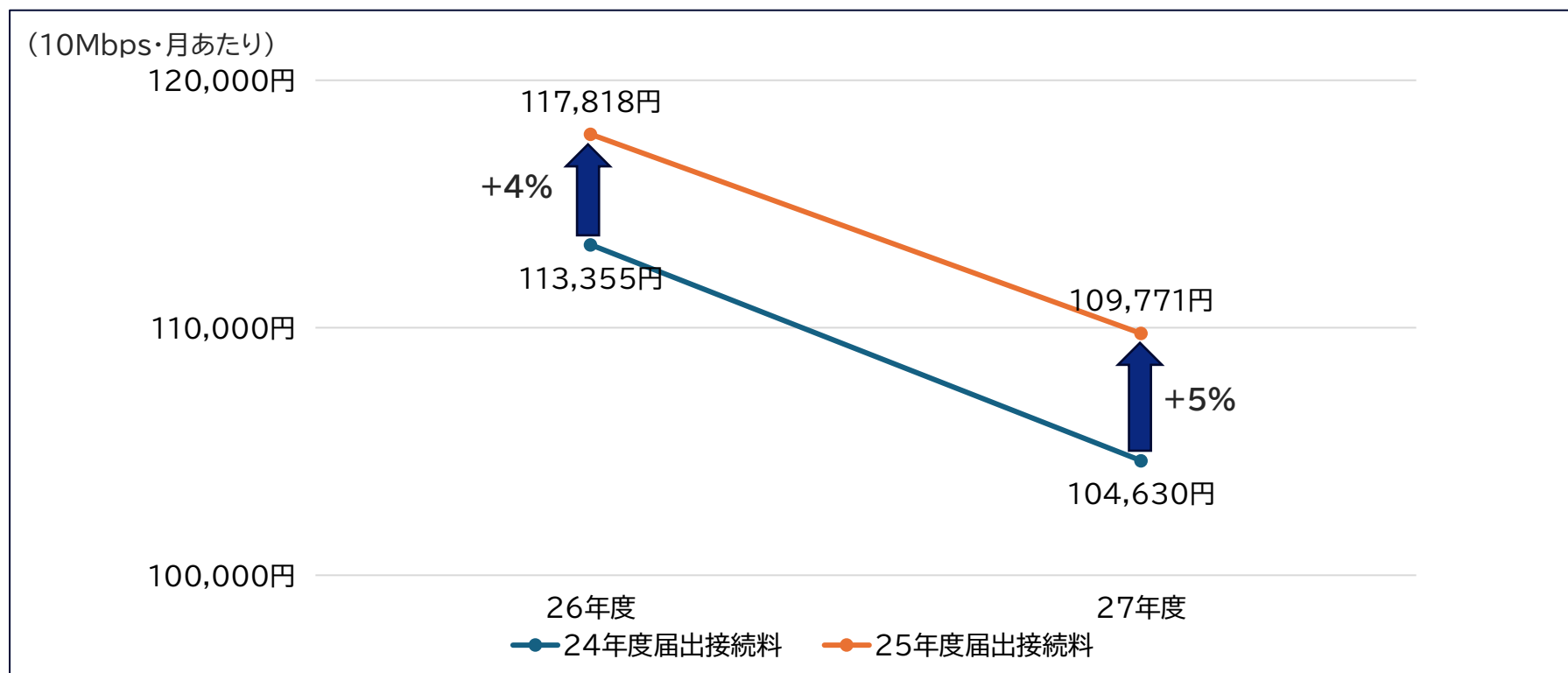
2026/5/19

1. 予測値の算定方法 及び MVNOへの情報開示
2. 原価の適正性の確保
3. 需要の適正性の確保
4. 各論点に関する当社意見

1. 予測値の算定方法 及び MVNOへの情報開示
2. 原価の適正性の確保
3. 需要の適正性の確保
4. 各論点に関する当社意見

予測接続料の差異(予測値・予測値)

- 25年度届出接続料は前年度届出接続料から4~5%上昇



予測接続料の差異(予測値・予測値)

➤ 予測接続料単価の主な上昇要因は原価の増加

26年度 予測接続料	24年度届出	25年度届出	差異
原価(3社合計)			
利潤(3社合計)			
需要 (合計からの逆算値)			
接続料	113,355円/10Mbps・月	117,818円/10Mbps・月	+3.9%

予測接続料の差異(予測値・予測値)

- 費用配賦見直し後の実績が23年度分(1年度分)のみであり、予測接続会計に当該影響を十分に反映できず、その結果、予測接続料の精度にも影響
- 予測原価のうち、特に差異が大きかったものは、

26年度予測接続料に係る差異

単位:百万円

接続会計 (3社計)	24年度届出	25年度届出	差異
営業費			
運用費			
施設保全費			
共通費			
管理費			
試験研究費			
研究費償却			
減価償却費			
固定資産除却費			
通信設備使用料			
租税公課			
合計			

単位:百万円

原価 (3社計)	24年度届出	25年度届出	差異
営業費			
運用費			
施設保全費			
共通費			
管理費			
試験研究費			
研究費償却			
減価償却費			
固定資産除却費			
通信設備使用料			
租税公課			
合計			

25年度接続会計についても今後確認・検証の上、予測精度の向上に努めていく考え

- MVNOからの問い合わせに対し、激変緩和措置がなかった場合の諸情報を開示
- 加えて、予測接続料に係る主な差異要因についての説明を実施

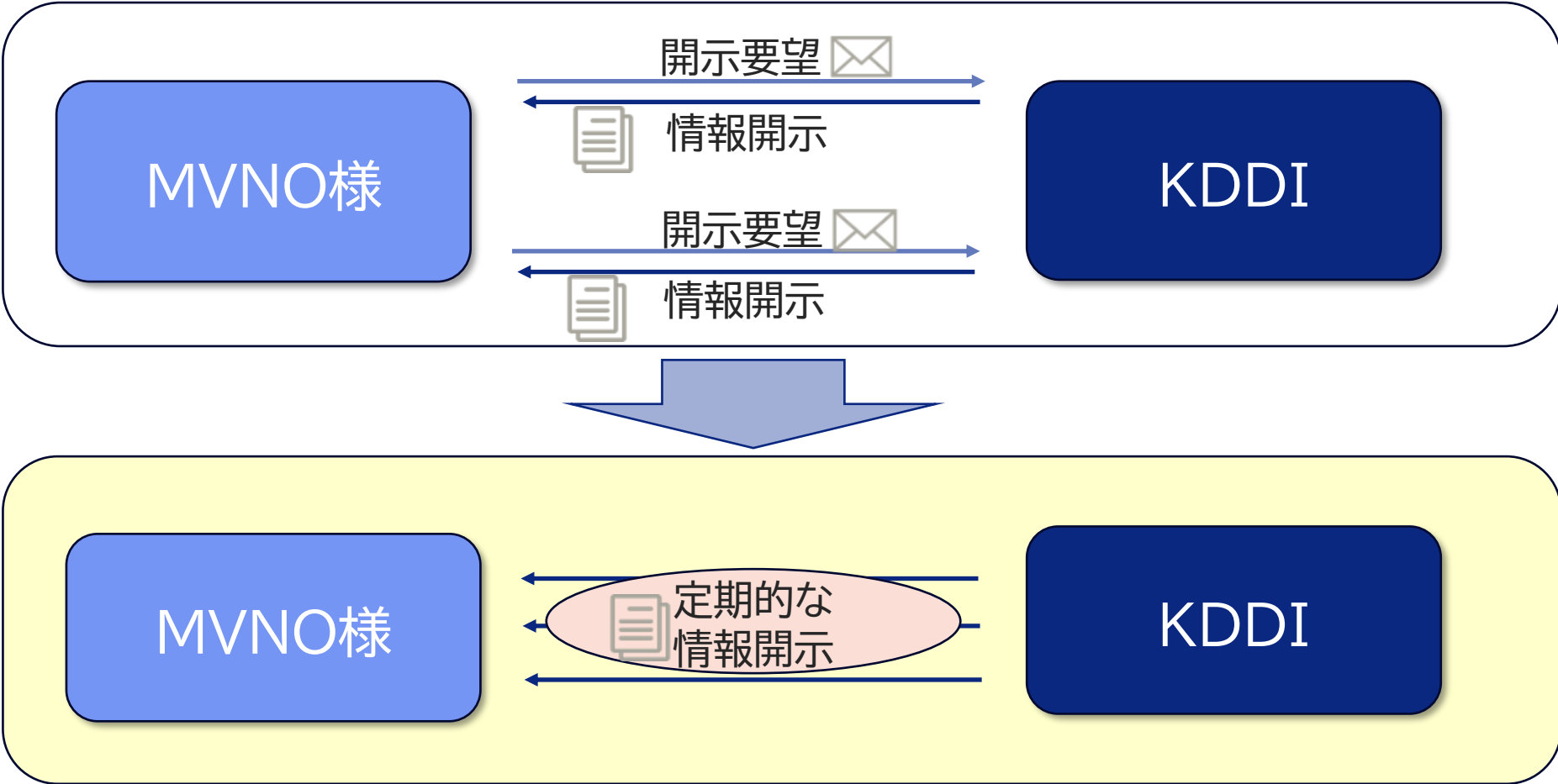
■具体的な開示文書の一例



■具体的な開示情報

- 激変緩和措置がなかった場合の接続料に係る「原価・利潤の合計における原価の比率」、「原価・利潤・需要の対前年度比」、「実績に基づく精算接続料の算定に用いた原価、利潤及び需要に対する当該年度予測接続料の算定に用いた原価、利潤及び需要のそれぞれの比率」、「激変緩和措置がなかった場合の接続料」
- 予測接続料に係る「原価・利潤の合計における原価の比率」、「25年度に予測した26年度予測接続料の算定に用いた原価・利潤・需要に対する24年度に予測した26年度予測接続料の算定に用いた原価・利潤・需要のそれぞれの比率」

- 要望をいただいたMVNOに対し、当社から定期的に情報開示をするように運用を見直し 今後のご要望を踏まえて情報開示に努めていく考え



1. 予測値の算定方法 及び MVNOへの情報開示
- 2. 原価の適正性の確保**
3. 需要の適正性の確保
4. 各論点に関する当社意見

空中線設備の配賦方法について

- 個々の配賦基準自体は一定の合理性があったとしても、特定の音声・データ共通設備の多寡が接続料水準に大きく影響する現状は、コストの実態を適切に反映できていないおそれ
- ビル&キープの原則化に向けて、接続料のアンバランスを適正化し、円滑な移行を促進していく観点からも一律の基準(トラヒック比)に見直すべき

- 音声/データ接続料の原価抽出の過程において、二種指定事業者間で同一のコスト配賦基準を用いること自体は透明性の観点から合理的であると考えます。
- 事業者ごとに一定程度のコスト差が生じることは当然あり得ると考えますが、特に、空中線設備は、音声伝送役務/データ伝送役務への配賦割合が事業者間で大きく異なり、その影響もあり、結果として、25年度の音声接続料の各社の水準差は拡大しています。
- 現在の空中線設備は、トラヒック比で配賦する設備と回線数比で配賦する設備があり、回線数比で配賦する設備の多寡が、移動体のコスト配賦に大きな影響を与えていると考えます。コストは、トラヒックや回線数に関連して形成される側面はあると考えますが、必ずしもそれらのコストドライバーと一義的に対応しているわけではありません。そうした中で、共通的なコストを配賦するにあたり、特定の配賦基準(回線数比)で配賦する設備量の多寡によってコストが大きく変化する現状は、接続料原価の基となる費用配賦の観点においては、必ずしも妥当であるとは言えないと考えます。そのため、特定の設備の多寡によって接続料水準が大きく変動しない形で配賦基準を設定することが必要であり、全ての設備に一律の基準(トラヒック比)を適用する形に見直すべきと考えます。

1. 予測値の算定方法 及び MVNOへの情報開示
2. 原価の適正性の確保
- 3. 需要の適正性の確保**
4. 各論点に関する当社意見

設備容量と需要の関係について

- 当社需要は、実トラヒックに対し、需要予測の不確実性や設備増設に係るリードタイム、設備増設遅延のリスク等を踏まえて設定
- 24年度からは5GSAを一体算定としたことで、需要は増加

1. 予測値の算定方法 及び MVNOへの情報開示
2. 原価の適正性の確保
3. 需要の適正性の確保
4. 各論点に関する当社意見

各論点に関する当社意見(1/6)

	論点	当社意見
予測値の算定方法	<ul style="list-style-type: none"> 2025年度届出接続料における予測値算定は、費用配賦の更なる見直し及び4G・5G(NSA方式)と5G(SA方式)を一体とした算定に対応した予測となっているのではないか。 一部事業者においては、2024年度に届出された予測接続料よりも、<u>2025年度に届出された予測接続料が上昇しているところ、そのような状況を踏まえて、MNOによるMVNOへの情報開示状況について確認することが適当ではないか。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> 左記のとおり、一体算定に対応した予測を行っています。 スライド7のとおり、MVNOからの問い合わせに対し、激変緩和措置がなかった場合の諸情報の開示や、予測接続料に係る主な差異要因についての説明を実施しております。 また、これまではMVNOからの都度の要望に応じて情報開示していたところ、要望をいただいたMVNOに対して当社から定期的に情報開示をするように運用を見直しています。今後もご要望を踏まえて情報開示に努めていく考えです。

	論点	当社意見
原価	<ul style="list-style-type: none"> ステップ1の音声伝送役務/データ伝送役務間の費用配賦について、累次の見直しを行ってきているところだが、2025年度届出接続料の水準等を踏まえて、更に検討すべき点があるか。特に、<u>空中線設備の配賦方法</u>について、2025年度以降の接続会計においては回線数比の算出方法を報告規則ベースに統一することとしたところ、将来的に、回線数比からトラヒック比へ見直すことを含め、<u>ビル&キープ方式の原則化の議論も踏まえて、引き続き検討することが適当</u>ということでしょうか。 	<ul style="list-style-type: none"> スライド10のとおりです。
	<ul style="list-style-type: none"> ステップ2・3について、累次の議論を踏まえ一定の明確化を図ってきたところであり、2025年度届出接続料においても、原価の各社の抽出・配賦に関する考え方に大きな変更はなく、一貫性は確保されていると考えられるのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> 累次の議論を踏まえて一定の明確化が図られてきていると理解しており、一貫性は確保されていると考えます。
	<ul style="list-style-type: none"> MNO各社の衛星直接通信の開始により、通常のSMSや音声接続と衛星直接通信によるSMSや音声接続が一体的に提供される場合、SMS接続料や音声接続料原価に衛星コストが算入される可能性があるが、検討すべき事項はあるか。 	<ul style="list-style-type: none"> 音声と同様双務的であるためSMS接続料についてもビル&キープ方式の導入を検討すべきと考えます。なお、ビル&キープ方式導入までの間は、衛星コストの算入要否については、少なくともMNO3社で考え方を統一すべきと考えます。

各論点に関する当社意見(3/6)

論点	当社意見
<p>利潤</p> <ul style="list-style-type: none"> 「<u>投資その他の資産</u>」がレートベースに占める割合について、一部の事業社において増加が見られるものの、正味固定資産価額に比べるとその割合は大きくない。また、「貯蔵品」がレートベースに占める割合については引き続き僅少。引き続き、<u>予測対象とする必要は認められないのではない</u>か。 正味固定資産価額の算出については、費用配賦の更なる見直しを踏まえた考え方に基づいて算出されていると考えられる(ただし、費用配賦見直しの激変緩和措置により、データ接続料は2025年度接続料までは見直し前の水準が維持されるため、見直し後の正味固定資産価額を含むレートベースにより算出された利潤が実際の接続料に適用されるのは2026年度接続料以降となることが想定される)。 	<ul style="list-style-type: none"> レートベースに占める「投資その他資産」及び「貯蔵品」の割合は小さく影響は軽微であるため、引き続き予測対象とすることは不要と考えます。

各論点に関する当社意見(4/6)

	論点	当社意見
需要	<ul style="list-style-type: none"> MNOとMVNO間のPOIの冗長構成については、MNOから、新たな冗長構成が可能になった等としてMVNOに対して新たな情報提供を行ったとの報告はなかった。 各社の設備運用方針について、需要の考え方は昨年から大きな変更はなく、一貫性が確保されているのではないかと。他方、一部の事業者において、「冗長分を含む設備容量」と「接続料算定の需要に用いる設備容量」との差が拡大しているところ、恣意的な運用がなされていないか確認することが適当ではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> スライド12のとおりです。

	論点	当社意見
<p>その他</p> <p><卸電気通信役務の適正性の確保関係></p>	<ul style="list-style-type: none"> 接続料の算定等に関する研究会第9次報告書においては、一部の事業者では音声卸料金の見直しが行われていることが確認されたが、引き続き、接続料の検証及び代替性検証の際に状況を確認していくことが適当とされたところ、<u>費用配賦見直しの音声卸料金への反映状況はどうか。</u> <u>5Gホームルーターサービス</u>は、指定設備を用いて提供されるデータ伝送役務であり、事業者間の適正な競争関係に及ぶ影響が少ない役務には当たらないと考えられ、特定卸役務に含まれると考えることが適当(ただし、付加的な機能と考えられる位置特定機能や端末設備の提供は特定卸役務には該当しないと考えられる)とした。MNO3社からは、具体的な要望があれば真摯に対応するとの説明があり、当該MVNOにおいては、まずは卸役務の提供について協議を行うことが適当としたところ、<u>協議の状況はどうか。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ほとんどの卸先事業者が00XY自動接続を利用しており、当該接続料には配賦見直しの影響が反映されております。 音声卸料金については卸先事業者の要望に応じて見直し要否等の検討を行っていく考えです。

	論点	当社意見														
<p>その他 <IMS接続の協議状況></p>	<ul style="list-style-type: none"> 接続料の算定等に関する研究会第8次報告書において、モバイル音声卸における代替性の検証について議論した際に、MNO及び一部のMVNOから、IMS接続における緊急通報の仕様について課題があるとの説明があった。同研究会第9次報告書において、IMS接続の協議状況について確認した結果、緊急通報の仕様について課題があるとの説明があった点も含め、事業者間で協議が進展していることが確認されたが、引き続き、接続料の検証及び代替性検証の際に状況を確認していくことが適当とされたところ、協議の状況はどうか。 なお、NTTドコモは、2025年12月に接続約款を変更し、IMS接続機能に係る接続料等を設定している。 <table border="1" data-bbox="275 1105 1523 1286"> <tr> <td rowspan="3">IMS接続機能</td> <td>ア 通話モード接続機能</td> <td>1 GBごとに</td> <td>2,815円</td> </tr> <tr> <td>イ ショートメッセージ通信モード接続機能 (SMS in MME)</td> <td>1 通ごとに</td> <td>0.25666円</td> </tr> <tr> <td>ウ ショートメッセージ通信モード接続機能 (SMS over IP)</td> <td>1 GBごとに</td> <td>432円</td> </tr> <tr> <td colspan="2">特定接続契約者(IMS接続)回線管理機能</td> <td>1 契約者ごとに</td> <td>25円 (月額)</td> </tr> </table>	IMS接続機能	ア 通話モード接続機能	1 GBごとに	2,815円	イ ショートメッセージ通信モード接続機能 (SMS in MME)	1 通ごとに	0.25666円	ウ ショートメッセージ通信モード接続機能 (SMS over IP)	1 GBごとに	432円	特定接続契約者(IMS接続)回線管理機能		1 契約者ごとに	25円 (月額)	
IMS接続機能	ア 通話モード接続機能		1 GBごとに	2,815円												
	イ ショートメッセージ通信モード接続機能 (SMS in MME)		1 通ごとに	0.25666円												
	ウ ショートメッセージ通信モード接続機能 (SMS over IP)	1 GBごとに	432円													
特定接続契約者(IMS接続)回線管理機能		1 契約者ごとに	25円 (月額)													

「つなぐチカラ」を進化させ、
誰もが思いを実現できる社会をつくる。

KDDI VISION 2030

